視点を養えるよう評価者研修なども実施しています。

運用は平成23年度を本格実施という計画の中で進めていますので、平成24年度から段階的に取り入れていきたいと考えています。

●行政評価について

Q　行政評価システムを推進する上で庁内体制は整って進められていますか。

A　総務部長　企画政策課、総務課、財政課の3課が行政評価推進事務局となって各課と連携し、それぞれ事業の点検などをしながら進めています。

また、施策ごとに主管部、主管課を設けて横断的に取り組んでいます。

Q　生活者の視点に立った、行政体質改善が促進されてしかるべき。職員の行政マンとしての本気度が問われてきます。この本気度のバロメーターはいかにして計測出来ますか。

A　総務部長　人事評価の中で職員の目標設定と管理職による業務内容の確認、その双方の中で本気度を測り進めていきます。

Q　行政評価を推進するうえで有識者の方々の参加を提案させていただきたいと思いますが、いかがですか。

A　市長　結論から、まず御提言をしっかりと受けとめて検討させていただきます。行政改革、人事評価の構築につきまして、ずっと取り組んできておりますが、なかなか目に見える形で評価が上がっていないと、自分の中でも、もどかしい点があります。

それは現在ある仕組みを部分的に変えたり、つけ加えたりという形の中で、改革を行っていくという手法にどうしても陥っていると考えていますので、多少もどかしい点があろうかと思います。

そういった意味で有識者の方々のお知恵を外部からいただくという御提案は、大変ありがたいと思っていますので検討させていただきたいと思います。

個人質問

市川　陽子　議員

予防することの効果とその必要性

●予防対策について

Q　各がん検診の状況についてうかがいます。

A　保健福祉部長　社会保険のデータが反映されておりませんが、40歳以上の人口に対する受診者の割合は、平成23年度の胃がん検診5.2％、大腸がん検診6.9％、肺がん検診20・1％、前立腺がん検診13・2％、乳がん検診はまだ個別検診中で15・0％、子宮がん検診も10・1％です。

Q　受診率向上の対策についてうかがいます。

A　保健福祉部長　がんに対する知識を習得して頂くために、昨年度から市民を対象に講習会、シンポジウム等を開催しています。今年度も実施する予定です。

Q　女性特有の子宮頸がん予防ワクチンが、平成23年4月1日から平成24年3月31日までに、市内契約医療機関15か所で、中学1年生から高校1年生の女子へ接種がされています。現在の児童生徒の接種状況についてうかがいます。

A　保健福祉部長　10月末現在、申請者は680人で、対象者の62・2％です。1人の方が3回実施するのですが、延べ接種者数としては1千101人で33・5％です。

Q　接種にあたり、保護者や児童生徒への周知についてうかがいます。

A　保健福祉部長　広報紙が中心ですが、医師会とも協議し、先生方からも、お知らせしていただいています。

Q　九十九里町では、中学1年生から3年生を対象に6月15日に体育館で集団接種を行い、高校生は保護者同伴か委任状を持参する事で個別接種で行ったそうです。市として平成24年度の取り組みと、保護者への周知と集団接種及び個別接種等のアンケートの実施等についてうかがいます。

A　保健福祉部長　子宮頸がんワクチンの必要性と効果を理解していただくことについて、改めて方法を考えます。

AEDをいざという時に使えるように

●AEDの取り組みについて

Q　幼稚園、保育所の小児用AED設置の進捗状況についてうかがいます。

A　教育部長　幼稚園を所管している教育部、保育所、こども園を所管している保健福祉部と検討しており、平成24年度から設置をする方針で、来年度の当初予算要求をしています。

Q　行政の中で使用できる人数についてうかがいます。

A　総務部長　約470人弱の職員の中、正確な数字はわかりません。研修等も行っていますが、実際に使えるよう、今後努めていきます。

Q　東消防署に確認したところ、AEDの活用件数は、平成20年4月から平成23年7月のデータで、山武郡市内14件、そのうち山武市内は、6件だそうです。

そこで、AEDの設置場所がすぐにわかるように市のホームページのトップページや、一時的な広報等ではなく、新たに、くらしの便利帳等に掲載するなど、日頃からの意識を高めてはどうでしょうか。

A　総務部長　山武市の中には、庁舎あるいは、社会教育施設の会館等を含め、39のAEDが設置されています。設置することが目的ではなく、使えるようにAEDマップ等でお知らせできるよう、今後検討します。

Q　IT保健福祉センターの入り口の液晶